

バス専用レーンでイースト・サイドの通勤時間が短縮

ニューヨーク事務所

大都市における通勤ラッシュは日本だけに限った事ではありません。

ここ、ニューヨーク市でも通勤時間帯の交通渋滞は相当なものです。バスや地下鉄は、通勤時間帯であっても、満員になると当然のように駅を通過したり、突然「この先は止まりません」と車内アナウンスをして、手前の駅や停留所で乗客を降ろしてしまったりします。

今回は、こうした状況を打開すべく行われることとなった、市バスの取り組みを紹介します。

6月6日付のニューヨーク・タイムズ紙によると、市交通局は、全米で最も混雑したバス通りといわれるマンハッタンの1番街と2番街に、1,000万ドルの予算を投入し、快速バスを運行することを決めました。

これは10月から開始の予定で、マンハッタン島南部のハウストン通りから北部の125丁目までの区間に、自転車専用レーンと島状の歩行者用空間を備えたバスレーンを設けるそうです。これにより、これまで1時間半かかっていた同区間の運行時間の20%短縮を目指します。これが実現すれば、長いこと交通渋滞等の不便に苦しめられてきた、約5万人の沿線住民にとって朗報となります。

じつは、バス専用レーンの取り組みは、以前、ニューヨーク市でも実施したことがありましたが、二重駐車や交通法規を無視するドライバーのために失敗におわったという苦い経験があります。今回は警察による取り締まりや監視カメラでこうしたドライバーを阻止し、違反者には150ドルの罰金を科します。

今回の専用バスレーンは、レーン内でのタクシーの乗降を認めたり、交差点の中で他の車の侵入を許したり、他都市で行われているバス向けの青信号延長は行わないなどの問題

点はありますが、関係者は「21 世紀における新しい道路のモデルケースだ。少なくとも、車を利用するのと同じくらいのニュー Yorker がバスで通勤していることを当局が初めて認識した取り組みだ」と語ります。

この記事が出てしばらくした 7 月、市交通局は州の補助金の大幅削減を理由に、来年 1 月からの市バス・地下鉄等の運賃値上げ案を発表しました。市民の間には「致し方なし」とする意見もあるものの、すでに一部バス・地下鉄路線の廃止等を行っており、「値上げに見合うサービス向上をしなければ納得できない」という意見も数多くみられます。今回のバスレーン登場が「値上げに見合うサービス向上」となるのか、注目したいところです。

(2010/6/6 The New York Times)

(鈴木所長補佐 総務省派遣)

